7月NEWS

(1) 税制情報

平成26年度税制改正により、交際費等の損金不算入制度の延長・拡充が行われています。平成26年4月1日以後開始事業年度から交際費等の額のうち接待飲食費の額の50%相当額は損金の額に算入されることとなる今回の改正ですが、対象となる飲食費の内容や、帳簿への記載事項等注意等につき、国税庁より、平成26年度改正に伴う『接待飲食費に関するFAQ』が公表されておりますのでその一部をお知らせ致します。

[Q1] 法人が支出する交際費等の額のうち接待飲食費の額の50%相当額は損金の額に算入することとなったと聞きましたが、改正の内容はどのようなものですか。

[A]平成26年度税制改正では、交際費等の損金不算入制度について、その適用期限を平成28年3月31日まで2年延長するとともに、交際費等のうち飲食その他これに類する行為のために要する費用(社内飲食費を除きます。以下「飲食費」といいます。)であって、帳簿書類に飲食費であることについて所定の事項が記載されているもの(以下「接待飲食費」といいます。)の額の50%に相当する金額は損金の額に算入することとされました。

なお、中小法人については、接待飲食費の額の50%相当額の損金算入と、従前どおりの定額控除限度額までの損金算入のいずれかを選択適用することができ、定額控除限度額までの損金算入を適用する場合には、確定申告書等に定額控除限度額の計算を記載した別表15(交際費等の損金算入に関する明細書)を添付することとされています。

これらの改正は、法人の平成26年4月1日以後に開始する事業年度から適用されます。

[Q2] どのような費用が飲食費に該当しますか。

[A] 飲食費について法令上は、「飲食その他これに類する行為のために要する費用(社内飲食費を除きます。)」と規定されています。このため、次のような費用については、社内飲食費に該当するものを除き、飲食費に該当します。

イ 自己の従業員等が得意先等を接待して飲食するための「飲食代」

- ロ 飲食等のために支払うテーブルチャージ料やサービス料等
- ハ 飲食等のために支払う会場費
- ニ 得意先等の業務の遂行や行事の開催に際して、弁当の差入れを行うための「弁当代」
(得意先等において差入れ後相応の時間内に飲食されるようなもの)
- ホ 飲食店等での飲食後、その飲食店等で提供されている飲食物の持ち帰りに要する「お土産代」

[Q3] 飲食費に該当しない費用には、どのようなものがありますか。

[A] 次に掲げる費用は飲食費に該当しません。

[1] ゴルフや観劇、旅行等の催事に際しての飲食等に要する費用

通常、ゴルフや観劇、旅行等の催事を実施することを主たる目的とした行為の一環として飲食等が実施されるものであり、その飲食等は主たる目的である催事と一体不可分なものとしてそれらの催事に吸収される行為と考えられますので、飲食等が催事とは別に単独で行われていると認められる場合(例:企画した旅行の行程の全てが終了して解散した後に、一部の取引先の者を誘って飲食等を行った場合など)を除き、ゴルフや観劇、旅行等の催事に際しての飲食等に要する費用は飲食費に該当しないこととなります。

[2] 接待等を行う飲食店等へ得意先等を送迎するために支出する送迎費

本来、接待・供応に当たる飲食等を目的とした送迎という行為のために要する費用として支出したものであり、その送迎費は飲食費に該当しないこととなります。

[3] 飲食物の詰め合わせを贈答するために要する費用

単なる飲食物の詰め合わせを贈答する行為は、いわゆる中元・歳暮と変わらないことから、その贈答のために要する費用は飲食費に該当しないこととなります。

[Q4] 社内飲食費に該当しない費用には、どのようなものがありますか。

[A] 社内飲食費の支出の対象者について法令では、「専ら当該法人の役員若しくは従業員又はこれらの親族に対する」と規定されていますので、自社(当該法人)の役員、従業員(これらの者の親族を含みます。)に該当しない者に対する接待等のために支出する飲食費等であれば、社内飲食費には該当しません。したがって、例えば次のような費用は社内飲食費に該当しないこととなります。

イ 親会社の役員等やグループ内の他社の役員等に対する接待等のために支出する飲食費

□ 同業者同士の懇親会に出席した場合や得意先等と共同で開催する懇親会に出席した場合に支出する自己負担分の飲食費相当額

[Q5] 自社から親会社へ出向している役員等に対する接待等のために支出する飲食費は、社内飲食費に該当しますか。

[A] 出向者については、一般に、出向先法人及び出向元法人の双方において雇用関係が存在しますので、その者が出向先法人の役員等の立場で飲食等の場に出席したか、出向元法人の役員等の立場で飲食等の場に出席したかにより判断することになります。

具体的には、例えば、出向者が出向先である親会社の役員等を接待する会合に親会社の役員等の立場で出席しているような場合に支払う飲食代は、社内飲食費には該当しないこととなります。

他方、出向者が自社の懇親会の席に、あくまで自社の役員等の立場で出席しているような場合に支払う飲食代は、社内飲食費に該当することとなります。

[Q6] 接待飲食費については、所定の事項を帳簿書類に記載することとされていますが、具体的にはどのような事項を記載することとなりますか。

[A] 接待飲食費については、交際費等のうち飲食その他これに類する行為のために要する費用(社内飲食費を除きます。)で、かつ、法人税法上で整理・保存が義務付けられている帳簿書類(総勘定元帳や飲食店等から受け取った領収書、請求書等が該当します。)に、飲食費であることを明らかにするために次の事項を記載する必要があります。

イ 飲食費に係る飲食等のあった年月日

□ 飲食費に係る飲食等に参加した得意先、仕入先その他事業に関係のある者等の氏名又は名称及びその関係

ハ 飲食費の額並びにその飲食店、料理店等の名称及びその所在地

ニ その他飲食費であることを明らかにするために必要な事項

[Q7] Q6の帳簿書類への記載事項について、注意すべき点はありますか。

[A] 帳簿書類への記載事項として「飲食費に係る飲食等に参加した得意先、仕入先その他事業に関係のある者等の氏名又は名称及びその関係」があります。

これは、社内飲食費でないことを明らかにするためのものであり、原則として、飲食等を行った相手方である社外の得意先等に関する事項を「〇〇会社・□□部、△△◇◇(氏名)、卸売先」というようにして相手方の氏名や名称の全てを記載する必要があります。

ただし、相手方の氏名について、その一部が不明の場合や多数参加したような場合には、その参加者が真正である限りにおいて、「〇〇会社・□□部、△△◇◇(氏名)部長他10名、卸売先」という記載であっても差し支えありません(氏名の一部又は全部が相当の理由があることにより明らかでないときには、記載を省略して差し支えありません。)

[Q8] 中小法人については、接待飲食費の額の 50%相当額の損金算入と交際費等の額のうち年 800 万円(定額控除限度額)までの損金算入を選択適用できると聞きましたが、具体的にはどのように手続きをすればよいですか。

[A] お尋ねのように、中小法人については、接待飲食費の額の 50%相当額の損金算入と、定額控除限度額までの損金算入のいずれかを、事業年度ごとに選択できることとされています。具体的には、申告書等に添付する別表 15(交際費等の損金算入に関する明細書)において、いずれかの方法により損金算入額を計算し、申告等の手続きを行うこととなります。

[Q9] 接待飲食費に該当する費用の一部について、確定申告書に添付した別表 15 の接待飲食費の額に含めず、接待飲食費以外の交際費等として申告してしまいましたが、当該接待飲食費の 50%の損金算入を内容とする更正の請求をすることはできますか。

[A] 法人が、接待飲食費とすべき金額の一部又は全部につき 50%相当額の損金算入をしていなかった場合には、更正の請求の要件である「課税標準等若しくは税額等の計算が国税に関する法律の規定に従っていなかったこと又は当該計算に誤りがあったこと」に該当しますので、これを損金算入することを内容とする更正の請求書を提出することができます。

(2) 7月の主な税務

7月の申告や提出の主なものは以下の通りです。

提出期限等	内容
7月10日	6月分源泉所得税・住民税の特別徴収税額の納付 (年二回納付の特例適用者は、1月から6月までの徴収分を7月10日までに納付)
7月15日	所得税の予定納税額の減額申請
7月31日	所得税の予定納税額の納付(第一期分)
7月31日	5月決算法人の確定申告
7月31日	2・5・8・11月決算法人の3月ごとの期間短縮に係る消費税の確定申告
7月31日	法人・個人事業者の1月ごとの期間短縮に係る消費税の確定申告
7月31日	11月決算法人の中間申告
7月31日	消費税の年税額が400万円超の2・8・11月決算法人の3月ごとの中間申告
7月31日	消費税年税額が4,800万円超の4月・5月決算法人を除く法人の1ヶ月ごとの中間申告
7月中	固定資産税(都市計画税)の第2期分の納付

(3) スタッフの一言

梅雨独特の蒸し暑い日々が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしですか。

今年はW杯の年であり、私は眠れない日々が続いております。残念ながら日本代表はグループリーグ敗退という結果に終わりましたが、今回のW杯は、得点数が多く、スピーディでおもしろい試合ばかりです。私同様、寝不足の方々もたくさんおられると思いますが、梅雨があければ夏本番となります。どうか皆様お体にはお気をつけて日々お過ごしください。

担当 緒方 健